

## 脱帽

名古屋大学名誉教授 山田 幹 郎

愛知淑徳大学定年後、同非常勤講師として早3年目の夏休みです。今年度前期、「英語圏文学Ⅱ(詩・演劇)」(選択必修)2クラスを履修したのは英文学専攻の2年生各15名で、テキストは中西信太郎編註『英詩選・第一集』でした。

第1回目の授業で、出欠がすぐ分かるように番号順に学生の席を指示し席替え希望の有無を確かめてから、Guidepostに沿い、目標は英詩入門によりその基礎的読解力を涵養することを再確認。Poem, poetryの語源は‘to make’であり、音、音節からheroic coupletまでをハンドアウトによりごく手短かに解説。読解は、総当たり方式で順に皆の前で詩の朗読と訳、それからノーマル・オーダーの散文にした場合の文型とか、scansionやrhyme scheme、anaphoraやrepetitionの工夫の指摘、詩の構造やテーマの分析と感想のコメント等を求めるものと説明しました。宿題は、合計50行を句読点を含め正確に筆写したものの3部と自作の10行前後の英詩1編(モデルの詩提示は評価上プラス材料とした)を提出するように求めました。最後に、まとめの筆記試験について話し合いました。

当番順の予定が欠席のため急に代行になってとまどう学生が出る一方で、時間制限のため省略予定にしたMarlowe(‘The Passionet Shepherd to His Love’)やWhitman(‘As Toilsome I Wander’d’)に挑戦する学生もあって、パストラルや(南北戦争時の)理想の同志発見の世界をかいま見ることになりました。Browning, ‘Pippa’s Song’は、時間を春の朝7時の1点へ絞っていき、空間的には朝露の玉から広大な世界までを歌う。その最後の第8行‘All’s right with the world!’はブラウニングと彼の時代の楽天主義を代弁するとされる。それはそれでよいのだが、「すべて世は事も無し。」(上田敏、「春の朝 [あした]」)で事足れりとせず、その歌は、4部構成の劇詩*Pippa Passes : A Drama* (1841)にあつて絹糸紡績工場で働く貧しい少女ピッパが年1日の休みの元日の朝、第1部終わり近くで歌う。工場経営の老夫を殺して「片丘」の家の中で愛欲にふける年若の美しいイタリア人の妻とドイツ人の従業員がその歌を聞く。結局、男女は良心の呵責のため自殺し自らを罰するが、女の最後の言葉は男に対する神の慈愛を祈るものだった。夜を扱う第4部でピッパは父を殺されており、叔父は司教を務めていることが判明。何も知らないピッパの歌の楽天主義の奥には複雑な人間関係があり、歌の劇的効果は二人の心に‘right’が‘favourable’以上に‘morally good’の意味のように考えさせるものだったであろう。...、加えて、Descartesをひねり、大学は「我あり、ゆえに我思う」所ですよ、と脱線。

人前で質問攻めにあい、特に詩の朗読などをするのは初めてという学生にとって、その経験が就活等に少しでもプラスになればと願う。自戒もあってコンマを忘れた場合でも該当の詩はすべて筆写をやり直しにした。英詩作りでは、学生から例を示せ、と迫られ、7月初めに恥ずかしながら(参考)のコピーを渡す。表現形式は別にして、名古屋大学で大学院生の頃、比較文法の権威、

故前島儀一郎教授が、日本人が blank verse の英詩を作るのは大変ですよ、とさりげなくおっしゃった事をふと思い出したりしました。

そのため、集まった創作詩 29 編(欠席過多の1名を除く)は、いずれも苦心の程が感じ取れ、例えば、次の詩には脱帽せずにはいられませんでした。そんな経験もあって、若者たちが詩的想像力を含め自分の持ち合わせる能力を見つけて遅く生きていってほしいと祈念しつつ、妙に緊張した毎日を送っております。(引用は本人の了解済みです。)

Whiskey

I blow.

Kan Ito

Clang-clang

I pull the cork from top,  
And hear a little pop.  
It smells like sea.  
It looks like tea.  
It smells like oak.  
It's made by folk.

Make me drank.  
Make me frank.

(参考)

With Yawning Goldfish

Mikio Yamada

Glug-glug

The ice is clacked.  
The body is tracked.  
The frost will melt.  
It's such a belt.  
I feel the taste, its growth.  
Spread in my mouth.  
I swallow.  
I feel where you go.

Last spring my wife did buy a bas'n for me  
With goldfish three. I put it on my desk,  
Pouring water; no rest for their swimming.  
It was not long before they yawned to me,  
Their Lord, - and I now found myself yawning;  
"Oh, you are rude! no food this evening, fish!"  
I looked down on their eyes, which soon did melt  
My heart. At last I gave some food to them.  
My pen becomes much slower for their yawning.  
"Can I just write a thesis?" ask I yawning.  
"Yes, sir; forget no food," reply they swimming.